

# 小型無人機が初飛行

大 樹

宇宙航空研 究開発機構 試験順調に進行

【大樹】大樹町多目的航空公園で行われている宇宙航空研究開発機構(JAXA、本部東京)の飛行手順を確認し、飛

行特性などのデータを収集した。

同無人機はカメラや観測器を搭載し、気象観測や海上監視に使える単発のプロペラ機を2、3年以内の実用化することが狙い。事前に設定したプ

ログラムに従い、自動飛行できる機体の開発を目指す点特徴だ。

試験はJAXAの飛行試験技術開発センターの穂積弘毅主任研究員ら6人が参加。機体は全長約1.8メートル、全幅3.3メートル、重量20キロで、機体後方に付いたプロペラで飛ぶ。実験段階のため、遠隔操縦で飛行させる。

この日は午後3時から滑走路上で模擬試験を行

った後、本番へ。スピードに乗った乗用車の上から切り離して上昇。曇り空の中を心地よいエンジン音を響かせた。高度200メートル付近で水平、旋回飛行を繰り返した後、降下。軽量化で車輪がないため、滑走路横の芝生にゆっくりと胴体着陸させた。

小型無人機の開発は、気象庁気象研究所や海上技術安全研究所と共同で実施。危険な災害現場や火山の観測、海難者の捜索、不審船の監視などで活用される見込み。

(浅井文人)



遠隔操縦で快調に飛行する小型無人機



離陸は乗用車の屋根に取り付けて行う

穂積主任研究員は「29日まで試験を繰り返して飛行性能や特性のデータを蓄積して詳しく分析したい」と話した。